

令和2年5月26日

保護者各位

「保育再開に際してご理解いただきたいこと」

ー新型コロナウイルスの感染拡大防止のなかでの保育における

子どものより良い育ちを願ってー

ほうこく保育園 園長 筑波 晃英

5月21日、兵庫県も新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言が解除されました。いよいよ来週より短縮登園が始まります。

これまで、ご家庭で家庭保育にご協力いただきました保護者の皆さんには、長期間にわたり懸命にお子さんの命をお守りいただきましたこと、感謝と敬意を表します。

保育園の再開にあたり、皆様にご理解いただきたいことがあります。それは、新型コロナウイルスの感染拡大が収束したわけでは無いということです。したがって、教育・保育の再開は新型コロナウイルスの感染拡大以前と同じようにはいきません。私たちもこれまで通りの保育とはいかず、異なる形での保育を行うこととなります。安全を第一の手探りで再開ですので、短時間保育からのスタートとなります。

新年度が始まってから、職員全員で家庭で過ごす子ども達の事を常に想いながら様々な準備をしてまいりました。保育が再開することで新入園児は保育園に、進級児も新しいクラスに馴染んでいくことでしょう。少しでも早く、子ども達が保育園の中で楽しみを見つけ、登園したい気持ちがどんどん膨らんでくれることを願っております。

家庭でも、登園を待ちわびるお気持ちと感染に対する不安の両方があるかと思われれます。短縮登園を実施するにあたり、園ではミーティングを重ねて、感染拡大防止を意識した保育をしてまいります。そのため、年間カリキュラムの保育を例年通り行うことは難しい状況にあります。休業期間があったことを意識し子ども達に無理をさせてしまう保育をするより、子ども達の健全な育ちにとって、育ちに合わせた保育が必要となります。このように例年通りの保育ができないため、保護者の皆様の中にはストレスや不安を感じられる方もおられるかもしれません。例年と同じように活動や行事を行うことは難しいかもしれませんが、私たちは保育の形態を変えながら、例年通りの子どもの育ちを願って保育を行う所存です。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業によって、子ども達は家庭で守られて過ごしてきました。そこでの安定は例年の子ども達以上の力を培っていると思います。

そして、例年とは違った育ちがあるからこそその教育保育要領で謳われている5領域や3つの資質能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）等の力を育てていけるよう、目の前の子ども達を十分理解し、保育を再構築していきます。

数ヶ月の間に何十回と耳にした「3密を避ける」ということは、短縮登園を始める今、あらためて保育園という幼児期の教育機関では本当に難しいことだと感じております。泣いている子が居れば、今までだったらずっと抱っこしてあげていたのに、「感染拡大防止の観点から抱っこしてもよいのか？」と一瞬躊躇してしまいそうという先生の声もありました。子どもがずっと先生の手を握ってくる、遊びの中で子ども達同士がだんだんとお互いの距離を縮めて遊ぶ、いろいろな活動に夢中になるあまり顔を寄せ合い話す、これらは幼児に止めることの難しいあたり前の姿です。

幼児期の教育は先生と子どもの信頼関係に支えられて成り立っています。幼い子は自分の思いを言葉でやりとりすることが難しいので、子どもの思いを読み取ることと同時に子どもに思いに寄り添い、表情やそっと背中をさすってあげる等のスキンシップを中心とした言語によらないコミュニケーションが重要な時期です。こうした過程を経ることで先生との信頼関係が形成され、友達との関係を築いていけるようになります。園としては感染を防ぐために園内の消毒や子ども達の手洗い、マスクの着用等をはじめとしてできる限りの対応をしていきます。しかしながら、乳幼児期の特性や保育の特性を踏まえると完全に接触を防ぐことが難しいこともご理解ください。そのため、感染が心配な方はご家族の判断でお休みいただいて結構です。通園に抵抗がある間は無理して登園しなくても構いませんので、上記の趣旨をご理解されご家族で良くお話し合いのうえ登園させてあげてください。今後感染の第二波も来ることが想定されています。周りの状況を見極めて各ご家庭の判断と責任のもとでの通園をお願いします。

集団の場での教育保育である幼児教育の本来の姿に戻るには時間がかかると思いますが、地域の状況に注意をはらいながら、育ってほしい力が培われるように努力してまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う新しい保育に、どうぞこれからご理解と協力の程よろしくお願いいたします。

兵庫県私立幼稚園協会の文章を引用しました。